



食品の検査状況

特集でもふれましたが、食品には、食品衛生法により、農薬には残留基準、食品添加物には使用基準が定められています。保健所では、これらに違反する食品を排除し、安心して食生活が出来るよう検査をしています。今回は1996（平成8）年度に行った「残留農薬」「抗菌性物質」「動物用医薬品」「食品添加物」「環境汚染物質」の検査結果を、輸入食品、国産食品別に紹介します。検査結果については、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市のデータを集計したものです。

残留農薬の検査結果

残留農薬の検査を野菜・果実や食肉など1,186件について実施したところ、国産のかぶ1検体から殺虫剤のフェンバレシトが残留基準値を超えて検出されました。

違反食品については、販売を禁止するとともに、生産地を所管する自治体に通報し、出荷団体の指導などを依頼しました。

◆国産食品の検査結果◆

| 検査食品 | | 検体数 | 検査した品目 | 不適数 |
|-----------|------|-----|----------------|-----|
| 残留基準のある農薬 | 農産物 | 263 | ほうれん草、大根、りんごなど | 1 |
| | 畜産物 | 10 | 牛乳 | 0 |
| | 小計 | 273 | — | 1 |
| 残留基準のない農薬 | 農産物 | 227 | ほうれん草、イチゴなど | — |
| | 畜産物 | 104 | 食肉、鶏卵、牛乳など | — |
| | 魚介類 | 10 | | — |
| | 加工食品 | 32 | 野菜加工品など | — |
| | 小計 | 373 | — | — |
| 合計 | | 646 | — | 1 |

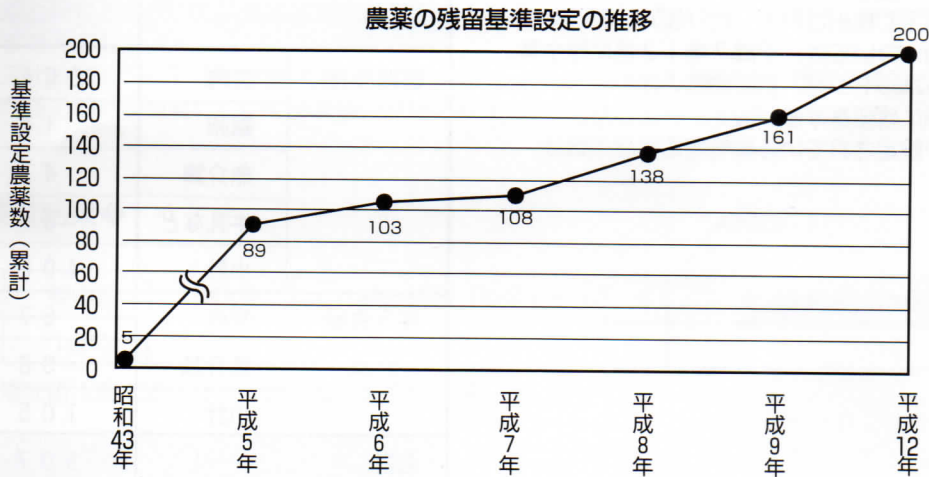
◆輸入食品の検査結果◆

| 検査食品 | | 検体数 | 検査した品目 | 不適数 |
|-----------|------|-----|----------------|-----|
| 残留基準のある農薬 | 農産物 | 255 | オレンジ、レモン、イチゴなど | 0 |
| | 畜産物 | 69 | 食肉 | 0 |
| | 小計 | 324 | — | 0 |
| 残留基準のない農薬 | 農産物 | 180 | グレープフルーツ、オクラなど | — |
| | 畜産物 | 29 | 食肉 | — |
| | 加工食品 | 33 | 濃縮果汁、スパゲッティなど | — |
| | 小計 | 242 | — | — |
| 合計 | | 566 | | 0 |

農薬の残留基準

国では、昭和43年にきゅうりなど4種類の野菜・果実に、5農薬の残留基準を設定して以来、現在、すべての農産物を対象に161農薬に残留基準値を設定しています。

2,000（平成12）年までに200農薬の基準を定める予定です。



抗菌性物質の検査結果

抗菌性物質の検査を、食肉・鶏卵・牛乳など約4,000件について実施したところ、7件から抗菌性物質が検出されました(表)。

- 抗菌性物質が検出された食品・・・国産豚肉2件、国産牛肉4件（ペニシリン系）
- 合成抗菌剤が検出された食品・・・国産牛肉1件（エンロフロキサシリン）

いずれもと畜場に搬入された牛や豚から検出された事例で、食肉衛生検査所の検査によって全部廃棄処分となっており、市場に流通するのを未然に防ぎました。

| 検査食品 | | 検体数 | 検査結果 | |
|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 抗生物質 | 合成抗菌剤 |
| 国産食品 | 食肉 | 3,165 | 6 | 1 |
| | 鶏卵など | 69 | 0 | 0 |
| | 魚介類など | 86 | 0 | 0 |
| | 牛乳など | 370 | 0 | 0 |
| | はちみつ | 1 | 0 | 0 |
| | 小計 | 3,691 | 6 | 1 |
| 輸入食品 | 食肉 | 88 | 0 | 0 |
| | 魚介類 | 100 | 0 | 0 |
| | 冷凍食品 | 26 | 0 | 0 |
| | 小計 | 214 | 0 | 0 |
| 計 | | 3,905 | 6 | 1 |

動物用医薬品の検査結果

動物用医薬品の検査を、食肉、魚介類、牛乳など507件について行ったところ、国産の羊肉1件から駆虫薬のイベルメクチンが規制値を超えて検出されました（表）。

動物用医薬品の規制については、平成7年12月に駆虫薬、牛の肥育用に使われるホルモン剤、抗生物質のオキシテトラサイクリンなど6種類に残留基準値が設定されました。

現在、残留基準値が設定されている動物用医薬品の数は、11となっています。

| 検査食品 | | 検体数 | 不適数 |
|------|------|-----|-----|
| 国産食品 | 食肉 | 304 | 1 |
| | 鶏卵 | 14 | 0 |
| | 魚介類 | 47 | 0 |
| | 牛乳など | 37 | 0 |
| | 小計 | 402 | 1 |
| 輸入食品 | 食肉 | 67 | 0 |
| | 魚介類 | 38 | 0 |
| | 小計 | 105 | 0 |
| 合計 | | 507 | 1 |

食品添加物の検査結果

食品添加物は、食品の保存性を高めたり、色どりを加えるなどの目的で使用されています。

保健所では、毎年、約1万件におよぶ食品について、これらの食品添加物が正しく使われているか、正しく表示がされているかをチェックしています。

1996（平成8）年度は、国産食品、輸入食品を合わせて9,884件の検査を行ったところ、食品添加物を使用しているにもかかわらず表示がなかったなど、表示不適正のものや食品添加物が食品衛生法に定められた使用量より多く含まれていたものなど不適のものが83件ありました。

| 食品の種類 | 国産食品 | | 輸入食品 | |
|-------------|-------|-----|-------|-----|
| | 検体数 | 不適数 | 検体数 | 不適数 |
| アイスクリーム類・氷菓 | 70 | 0 | 4 | 0 |
| 菓子類 | 835 | 17 | 345 | 4 |
| かん詰・びん詰食品 | 58 | 0 | 318 | 3 |
| 魚介類加工品など | 3,584 | 28 | 211 | 0 |
| 穀類など | 229 | 0 | 63 | 2 |
| 酒など | 47 | 0 | 72 | 3 |
| 清涼飲料水 | 289 | 0 | 36 | 1 |
| 食肉製品など | 943 | 2 | 28 | 2 |
| 乳製品など | 138 | 0 | 19 | 0 |
| 野菜・果実など | 1,563 | 11 | 218 | 2 |
| 冷凍食品 | 106 | 0 | 53 | 1 |
| 器具容器包装・おもちゃ | 41 | 0 | — | — |
| その他の食品 | 533 | 7 | 81 | 0 |
| 計 | 8,436 | 65 | 1,448 | 18 |



環境汚染物質の検査結果

水俣病の原因となった有機水銀、カネミ油症の原因物質として知られているPCB、船底塗料や魚網の汚染防止剤に広く使われていた有機スズ化合物（TBTO、TPT）などの環境汚染物質の検査も行っています。

このうち、水銀とPCBについては暫定的規制値が定められていますが、1996（平成8）年度の検査では規制値を超えるものはありませんでした。

また、有機スズ化合物については規制値は定められていませんが、1996（平成8）年度の検査では微量に検出されていることから、今後も検査を継続していく必要性が認められます。

◆総水銀の検査結果◆

| 検査食品 | 検体数 | 検出数 | 検出範囲（単位ppm） | 暫定的規制値を超えた数 |
|------|-----|-----|-------------|-------------|
| 魚介類 | 170 | 131 | 0.001~0.31 | 0 |

* 暫定的規制値：総水銀 0.4 ppm メチル水銀 0.3 ppm

◆PCBの検査結果◆

| 検査食品 | 検体数 | 検出数 | 検出範囲（単位ppm） | 暫定的規制値を超えた数 | |
|------|-------|-----|-------------|-------------|---|
| 魚介類 | 遠洋沖合産 | 23 | 11 | 0.01~0.02 | 0 |
| | 内海内湾産 | 37 | 13 | 0.01~0.3 | 0 |
| 鶏卵 | 10 | 0 | — | 0 | |
| 牛乳 | 10 | 0 | — | 0 | |
| 計 | 80 | 24 | 0.01~0.3 | 0 | |

* 暫定的規制値：魚介類（遠洋沖合産）0.5 ppm、魚介類（内海内湾産）3.0 ppm、卵類（全量中）0.2 ppm、牛乳（全乳中）0.1 ppm

◆有機スズ化合物の検査結果◆

| 項目 | 検査食品 | 検体数 | 検出数 | 検出範囲（単位ppm） |
|------|------|-----|-----|-------------|
| TBTO | 魚介類 | 188 | 94 | 0.01~0.33 |
| TPT | 魚介類 | 188 | 81 | 0.01~0.13 |

* TBTO：ビストリブチルスズオキシドの略称 TPT：トリフェニルスズの略称

